

「いのちをつなぐ支援」の概念 (全国キャンペーンにおける群馬県共同募金会の助成スタンス)

いのちをつなぐ = 「自尊心」の回復

令和2年度は、当然、
一次的な「生存、保護」
に着目して支援が集中

「生きる」を支えるニーズの“深化”

生存、保護

衣食住、発育、発達

社会参加、自由(権利)

労働、就学、ピアサポート、体験

アイデンティティ

役割、こころの在り方、将来の礎

問題が解決しなければ、
二度三度と、いのちの
危機が巡ってくる。

◎家族を、社員を、客を、誰かを
支えているという**自尊心を、
突然奪われた喪失感**

◎病の後遺症、また周囲の偏見
により将来を見通せなくなる
不安感

◎元々抱えていた生きづらさが
コロナ禍で表面化・悪化

(充足されないと戻ってしまふ)

問題の長期化を防ぐため、
ニーズの深化に寄り添い
問題の根本に迫る支援が
必要になってくる。

◎問題の長期化が懸念される事柄(例示)

- ・家庭への影響(新しい生活様式がもたらす子どもの発達への影響、就学・就労・働き方の変化、家族関係の変化など)
- ・コミュニティへの影響(地域交流の停滞、高齢者の外出機会の減少、当事者活動・ピアサポートの場の休止など)
- ・社会問題(感染者差別、非正規労働者差別、格差の拡大、ひとり親家庭の生活困難、外国人支援の遅れなど)

「いのちをつなぐ支援」の概念 (全国キャンペーンにおける群馬県共同募金会の助成スタンス)

“「生きる」ニーズ”を深化させ、当事者が問題の根本に迫ることができたら理想的です。その一助となるような活動を応援します。

「生きる」を支えるニーズ

生存、保護

社会参加、自由(権利)

アイデンティティ

複雑に絡み合う因果関係を紐解いていく

対象事業がどの段階の支援なのかを意識して助成することで、問題の偏在を確認し、社会構造の改善点を見出すことを目指します。

自尊心に配慮し、「入口の多様化」で潜在ニーズを拾う

相談・情報提供
(対面、電話、メール、SNS)

気軽に参加・利用
(日常の延長線上にあるサービス)

自力で回復

匿名性を保証すると問題解決につながりにくい。スティグマに配慮しながら個々人にあった支援を。

給付系支援(お金、食料、住まい等)

自立促進系支援(仕事、就学、参加、)

こころの支援(治療、傾聴、ピア、対偏見等)

自尊心を取り戻すための支援であることを意識できるか。「いのちをつなぐ」支援は、アセスメントがあってこそ生きる。

相談・支援内容から、社会構造上の壁を明確化し、改善につなげる。(主張、ロビーイング、啓発など)